

令和元年度第5回士別市教育委員会会議録

1. 日 時 令和元年 8月 8日 (木) 午後3時30分～午後5時35分
2. 会 場 教育委員会 教育長室
3. 出席者 教育長 中 峰 寿 彰 生涯学習部長 鴻 野 弘 志
代理 五十嵐 紀 子 朝日地区スポーツ統括監 長 南 広 基
委員 千 田 秀 昭 学校教育課長 須 藤 友 章
委員 馬 場 千 晶 学校教育課事務管理監 大 留 義 幸
委員 加 藤 洋 之 社会教育課長 武 山 鉄 也

4. 議 件 (発言者、議事要旨及び議決事項)

○中峰教育長あいさつ

いよいよ夏休みに入った。みよし市からの派遣小学生も来訪した。士別での交流を通じて、良い思い出を作り、ともに有意義な夏休みにしてもらいたい。スポーツ合宿もピークを迎えている。先日も合宿選手との市民交流会も開催したところであり、委員各位にも出席いただき感謝する。交流会については選手ファースト、市民ファースト両面でのさらなる配慮が必要と感じた。会の中盤以降は、各テーブルで会話が弾んでおり、今回初めて提供したトマトジュースも非常に好評だったなかで、序盤の組み立てなども検討したい。多くの人が来市されるなか、これからも、おもてなしの心を忘れないようにしたい。本日は追加の案件も予定しているので、よろしく願います。

1 議事について

○中峰教育長 進行

議案第12号 令和元年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価に関する報告について説明を求める。

○鴻野部長

本件については、平成19年の法律改正によって、教育委員会が点検・評価することが義務付けられたもので、本年も5名の評価委員に依頼し、評価委員会を開催した。評価委員会では評価のあり方や比率、各施策・事業などについて意見をいただいた。(各担当から主な事業について説明)

○中峰教育長

評価の基準について、事業によっては従前どおりの取組状況であってもA評価となっているものもある。どのような基準と客観性によって評価することが望ましいか、これという形はない現状にある。評価がスタートした時は3段階だったが、現在は5段階で実施している。評価委員会では「B」と「C」の違いがはっきりしないとの意見もあった。北海道教育委員会では本年度から定量評価と定性評価を取り入れ、最終的に総合評価を判定する方式に変更した。目的の達成度合いなども含めて、来年度はもう少し整理し、より分かりやすい評価になるよう検討したい。

○五十嵐代理

何かの基準で点数がつく訳ではないので、評価が難しいことは理解している。A評価であっても、事務事業の必要性としては「見直し必要」となっているものもある。

○武山課長

取り組み実績としてはA評価だが、複数年をかけて見直しを進めている最中であり、判定については「見直し」とした。

○五十嵐代理

継続と見直しの両方に該当させてはどうか。

○中峰教育長

例えば「マイプラン・マイスタディ」においては、新規の取り組みが少ない状況もあるのか、一部では自治会の交流事業的要素が強くなってしまっているものもある。

○千田委員

「マイプラン・マイスタディ」の実施回数は前年と比較してどうか。

○中峰教育長

減っている。地域によっては人口の減とともにニーズが落ち込んでいる状況もある。

○千田委員

事業の内容についても研修の側面が薄いものもあるように思う。

○五十嵐代理

「アーティスト・イン・レジデンス」も、広く一般市民に伝わっていないのではないかと感じる。関心のある人しか足を運んでいないので、あまり興味のない人にも訴えかけるものが必要ではないか。

○馬場委員

「レジデンス」は素晴らしい企画だが、多くの市民の目には触れていないと感じる。同じくハーフマラソンなどのイベントも、多くの関係者によって開催されているが、参加している市民は少ないように思う。一般市民の参加を増やす意識が必要で、目標が達成できたらもっと良い評価ができるのではないか。

○中峰教育長

ハーフマラソン参加人数の目標は2,000人。例えば今年のように国政選挙と重なり、参加者が少なくなった場合はB評価にせざるを得ない事業もある。

○五十嵐代理

これだけ多様な事業を評価するには様々な要素がある。全てを網羅することは難しい。

○加藤委員

いじめ・不登校について、適応指導教室では指導を行っているが、不登校の子どもは減っていない。残念ながら学校に戻れる状況にはなっていない。何をすれば良いかは難しいことだが、ただ過ごしやすい場所にして良いのかという点での課題もある。

○五十嵐代理

見方によって評価は難しい。

○中峰教育長

適応指導教室に通室できるようになっただけでも、その子にとっては前進であるという考え方もある。一方で、不登校の子どもを減らすことが大きな目標である。残念ながら、本市の場合、子ども全体の人数に対する不登校の割合は、全国平均に比べて低くない状況にある。

○加藤委員

すぐに解決できるものではない。夏休みによって子どもの生活習慣が変わり、休み明けにどうなるか、よく様子を見ることも必要。

チャレンジ寺子屋の日程は、学校の学習日と重複しないようにするべきではないか。

○武山課長

チャレンジ寺子屋と同時期に、土別小での夏休み中の学習が始まったと記憶している。学校では学力向上のために実施しているのに対し、寺子屋は夏休み中の生活習慣や学習・運動習慣の定着を主目的としており、目的が異なっていることから、重複もやむを得ないと判断してきたところ。

○中峰教育長

どちらも夏休み入りした直後に実施することが重要であるとの考え方もあり、選択してもらえないのではないか。

○加藤委員

子どもに選んでもらうのは良いが、重複していることがもったいないと感じている。

○五十嵐代理

各地区の文化祭の報告の中で、温根別地区だけ参加人数が記載されていないのはなぜか。

○中峰教育長

公民館で連携・調整を図るよう指示しているが、統一できていないところであり、改善していきたい。

○五十嵐代理

現場では、毎年工夫し、努力していると感じている。

○中峰教育長

文化祭は、公民館活動の一つの主要事業になっている。

本日、いくつか文言や評価を修正すべきとの意見があったため、事務局で再精査し、次回の会議で再度確認いただく。

○中峰教育長

次に、議案第13号 修学旅行の引率業務等に従事する土別市立学校職員の勤務時間の割振り等に関する要領の一部を改正する要領について説明を求める。

○大留管理監

道教委で定める要領が4月1日付けで改正されたため、本市の要領も同様に改正するもの。対象となる用務が2項目増えている。本日付けで施行し、4月1日に遡って適用する。

※ 議案第13号 了承

○中峰教育長

議案第14号 令和元年度土別市教育委員会補正予算について説明を求める。

○鴻野部長

市の内規では、嘱託職員が10年以上勤務した場合、退職する際に割増賃金として手当を支給している。昨年の予算に計上していたが、担当者の誤解により未執行となってしまう。関係部署と協議し、補正予算を要求することとなった。

○大留管理監

具体的には、日額の賃金単価30日分と勤務年数に10,000円を乗じた額を支給するもの。

○五十嵐代理

どうして判明したのか。

○鴻野部長

決算を確認する中で判明した。

※議案第14号 了承

○中峰教育長

追加議案として、1件提案する。議案第15号 給食費の改定について説明を求める。

○鴻野部長

平成20年に給食費を改定して以来、食材の工夫や調整などでやりくりして来たが、食材費等の高騰が続き、改定せざるを得ない状況にある。このため、来年度から小学生は1食あたり23円値上げし251円に、中学生は27円値上げし295円に、高校生は31円値上げし340円に改定するもの。

○中峰教育長

文部科学省からは、幼稚園や夜間定時制の高校に対しては軽減税率を適用し、8%に据え置くが、保育園や日間の定時制などは10%が適用されることが示されている。

○加藤委員

給食に求められることを考えると、最低限必要な対応は仕方ないことである。

○中峰教育長

今月下旬に給食会の役員会、その後に臨時総会、運営委員会を開催する予定。議会案件ではないが、どこかのタイミングで説明も考えていく。

※議案第15号 了承

2 その他について

(1) 当面する今後の日程について

鴻野部長説明。

○中峰教育長

本年も学校閉庁日を設定し、先生が夏休みに休めるよう取り組んでいる。子どもたちには良い夏休みを過ごしてほしい。

午後5時35分 会議の終了を宣した。

この会議は、会議の顛末を記載し、相違ないことを証するため署名する。

署名者

中峰 寿彰

会議録調整者

須藤 友章